

⑤(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- (1) しおりが挟まったままの本。
- (2) ついたてで部屋を隔てる。
- (3) 悠久の歴史を感じる。
- (4) 厳粛な雰囲気。
- (5) チームのハシラとなる存在。
- (6) 動物がつくったスナナ。
- (7) この荷物はアンガイ軽かった。
- (8) ヤハンに目を覚ます。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

独創性、オリジナリティとは何だろうか。「人跡未踏」という言葉がある。誰もまだ踏み得ていない場所のことである。到達の困難な地に足跡を残すことは功績であり栄誉でもある。未踏の地は冒険家たちによって次々に踏破されてきたが、中国雲南省の梅里雪山とか、南極の分厚い氷の下に眠るボストーク湖など、未踏の地はまだある。月面はアポロ11号の阿姆斯特朗船長によって踏まれた。火星にはまだ人は到達していないが、往後に何年もかけてそれを踏みに行くには哲学的な決断が必要であろう。しかし人類は踏んだことのない場所を踏みたがる。誰にでも分かりやすい明白なる達成がそこに刻印されるからだろう。創造や創発という行為が携えているイメージは、この未踏の地を踏むような手応えなのかもしれない。

しかし一方、昔の人が踏んだ足跡の上をことさら踏み重ねるようにして行う創造行為もある。和歌における「本歌取り」がそれである。これは先人が詠んだ古い歌を下敷きにし、一句から二句程度、古歌の言葉をそのまま使って歌を詠む方法をいう。② ならこれは創造性がないということになるが、本歌取りは、先人の作を、それを享受する人々が皆知っていることを前提とする創作である。和歌を詠む素養には、言葉を生み出す技術のみならず、過去に詠まれた歌に対する知識も含まれる。したがって先人の歌やそこに描かれた主題を、歌を詠む側も味わる側も共通知識として持っていることを前提に、新たな歌がそこに重ねられるのである。ここには普遍と個の問題が横たわっている。時代を経て人々の意識の中に残ってきたものに、自分という個を重ね合

3 次のうち、本歌取りや輾轡を回して茶碗を作ることに ついて、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 本歌取りという方法があるように、和歌を詠むには、言葉を生み出す技術よりもむしろ、過去に詠まれた歌に対する知識の方が必要となる。
- イ 本歌取りにおける創造性は、時代を経て人々の意識に残ってきたものに、個を重ね合わせていくことで見えてくる差異の中から見出される。
- ウ 輾轡を回して茶碗を作る行為における創造性は、自ずと生まれてきた相似反復からではなく、その中に生じた差異から見立てられていく。
- エ 輾轡を回して茶碗を作る行為には、先人の営みを踏襲しながらも、普遍的な美を超えた個の創造性を見立てようという意識が働いている。

4 ③ 日本文化の中に育まれてきた創造性 とあるが、日本文化の中に育まれてきた創造性について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。 a に入る内容を、本文中のことばを使って十字以上、十五字以内で書きなさい。また、 b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二十五字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

創造や創発という行為が携えているのは、未踏の地を踏み手応えのような a というイメージかもしれないが、日本文化の中に育まれてきた創造性は、先達の足跡に自分の足跡を重ねることで、創作意欲を発露しながらも、 b である。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

者慮時掲えま  
権配現の控り  
作のらでお  
著へか点載てす。

わせていくことで見えてくる差異の中に、創造性を見出そうという着想がそこにある。別の例で言えば、輾轡を回して茶碗を作る情景を想像してほしい。回転体であるから自ずと相似反復が生まれてくる。むしろ相似反復の中に茶碗が見出されると言ってもいいかもしれない。先人の営みをそのまま踏襲し、そこに生じる相似と差異の中に創造性が見立てられていく。多くの人々が認める普遍的な美がそこに見出されていく。個の創造性を超えた価値を探り当てようという意識、あるいは自我の表出に溺れず清まろうとする意志がそこに働いている。誤解を恐れずに言うなら、日本文化の中に育まれてきた創造性は人跡未踏にのみ価値を置いてはいない。自身の創作意欲を十全に発露しながらも、むしろさっぱりと個を始末し、普遍に手を伸ばそうとする姿勢である。同じ場所を同じように踏んでも足跡が完全に一致することはなく、必ず踏み方に違いが出る。だから先達の足跡に敬意を表しつつ、躊躇なく自分の足跡をそこに重ねられるのである。

(原研哉『白巨』による)

(注) 梅里雪山は中国雲南省にある連山のこと。

輾轡は陶器などを成形するときを用いる回転音。

1 次のうち、到達と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 修繕 イ 避暑 ウ 送迎 エ 密封

2 次のうち、本文中の ② に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 古歌を重んずる イ 古歌を軽んずる
- ウ 独創を是とする エ 独創を非とする

へらのえす。  
者かて控ま  
権慮点をり  
作配時載お  
著の現掲て

(注) 著者：ここでは、能や狂言などを演じる役者のこと。

藤十郎は元禄期を代表する役者。

1 ① を現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2 本文中には ② ということばが入る。入る場所として最も適しているものを本文中の ア ー エ から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

3 ③ とあるが、次のうち、このことばは本文中の意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 言い方を工夫しなければきちんと伝わらない
- イ 前もって言うことを考えるということはない
- ウ 口に出す前に慎重に考えなければならぬ
- エ あれこれ言おうとするのはみっともない

4 狂言のけいこや舞台の初日に、藤十郎が心がけていることについて、本文中で述べられている内容を次のようにまとめた。 a に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二字で抜き出さない。また、 b に入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで二十字以上、三十字以内で書きなさい。

狂言は、日常を a と考えるため、けいこの時にせりふをよく覚え、初日にはもとから忘れ、舞台において b ようにしている。

## 四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

季語は歳時記に収録されています。現代の歳時記には五千語を超える季語が収録され、本意本情が解説されています。互いに歳時記を参照することで詠み手と鑑賞者との間で季語の本意本情が共有され、短い言葉の中に込められたさまざまな心情を伝えることができるのです。そして、新たに生まれたさまざまな作品や解釈を受けて、歳時記に記載される季語やその意味も更新されていきます。十七音という短い言葉の中でさまざまな心情・風景を伝えるために、季語の本意本情は大きな役割を果たします。

俳句における季語の重要性について、人工知能研究の視点から考察してみたいと思います。通常コミュニケーションとは、何か伝えたいことを何らかの手段によって他人に伝えることを指します。言葉を紹介したコミュニケーションでは、伝えたいことを言葉に変換して他人に伝えます。**ア** 明確に区別できる有限な言葉の組み合わせで表現するという意味では、俳句はデジタルな情報であると言えます。**イ** デジタルな情報という点では、漠然とコンピュータが扱う情報と理解している人が多いと思いますが、デジタルとは飛び飛びの値しかない整数のような値によって表現される情報のことを意味します。**ウ** デジタルな情報の利点は、書き間違いなどをしない限り劣化することなくその内容を伝えていくことができるのですが、有限の情報しか表現できず伝えられる内容が限定されるという欠点も併せ持ちます。**エ** デジタルに対して温度や速度、電圧や電流のように連続した量を取るものをアナログと呼びます。アナログな情報はデジタルな情報と比べて連続した量をそのままの形で表せる一方で、情報を伝達するときにノイズなどの影響が原因で値がずれてしまうという特徴を持ちます。

俳句をデジタルな情報として考えたとき、俳句を詠むということは情景や心を感じたアナログな情報を、デジタル情報である十七音の言葉の組み合わせに変換している操作であると言えます。この十七音を通して作者の思いが他者に伝わるということは、読者が十七音を読み取って自分の頭の中に他者の感じた情景や気持ちを再現し、自分の状況に重ねていると言えるのではないのでしょうか。

1 本文中のA・Dの——を付けた語のうち、一つだけ他と活用形の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の**ア**～**エ**から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

したがって、文字で表現された内容もデジタルな情報であると言えるのです。

3 エンコーダーとデコーダーとあるが、本文中で筆者は、俳句を通してコミュニケーションにおいて、エンコーダーとデコーダーの役割は、具体的にどのようなことであると述べているか。その内容についてまとめた次の文の□に入る内容を、本文中のことはを使って五十五字以上、七十字以内で書きなさい。

詠み手が、□のこと。

つまり、俳句を通してコミュニケーションが成立するためには、世界や自分に関するアナログな情報をデジタル情報に変換するエンコーダーと、デジタル情報から世界や他者に関するアナログな情報を復元するデコーダーを持つ必要があることとなります。音楽の例でいうと、空気の振動からなるアナログなデータをデジタルに変換するエンコーダーによってデータを作成・保存し、デジタルなデータから最終的にスピーカーにより空気の振動に戻すデコーダーによって音楽が再現されることと同じようなことです。正確に情報を伝えるためには、エンコーダーとデコーダーの情報変換規則ができるだけ齟齬がないことが条件となります。

また、俳句では制約された十七音という言葉しか使えないことを考えると、正確さを保ちながらもできるだけ多くの情報を伝えることも、とても重要になってきます。使う言葉一つひとつの意味が多様性をもっていることに加え、お互いに言葉の意味が多様性が共有されていることが重要となります。つまり、俳句の詠み手、鑑賞者双方が多様な言葉の意味を知っていることはもちろんのこと、双方が互いに言葉の意味を知っていることを知っていることが重要です。人工知能の分野ではこのような「全員がそのことを知っていること」「全員がそのことを知っていることを知っていること」と無限に続く命題が成り立つとき、その事実は「共有知識」であると呼びます。

俳句において、歳時記で意味が解説されている季語を用いることを条件とすることにより、お互いが季語の本意本情を理解しているという共有知識が成り立ちます。これにより、正確で効率の良いコミュニケーションを成り立たせていると解釈することができますと考えられます。このような理由から、わずかに十七音で豊かな世界を表現する俳句には季語が必要なのではないでしょうか。

(川村秀憲・山下倫央・横山想二郎「人工知能が俳句を詠む」による)

(注) 本意本情 □ ここでは、ある題材が本来備えている性質、意味やあり方のこと。

4 次のうち、本文中で述べられていることから内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 詠み手と鑑賞者との間で季語の本意本情を共有することができるのは、歳時記に記載される季語やその意味が、新たに生まれたさまざまな作品や解釈を受けても変わることがないからである。

イ わずか十七音で豊かな世界が表現されるには、歳時記を参照し、詠み手と鑑賞者の双方が多様な言葉の意味を知りながらも、そのうちのどの意味で詠み手が言葉を用いたのかを鑑賞者が正確に理解する必要がある。

ウ 歳時記に収録された季語を用いることを条件とすることで、詠み手と鑑賞者の双方が季語の本意本情を理解しているという共有知識が成り立ち、わずかに十七音の言葉で、正確で効率の良いコミュニケーションが成立する。

エ 詠み手が歳時記を参照し、季語の本意本情を理解したうえで詠んだ俳句であれば、鑑賞者がその句に詠まれた季語の本意本情を知らなかったとしても、十七音という短い言葉だけで、豊かな世界を伝えることができる。

五 合意の形成に向けての話し合いを行う際に、あなたが心がけたいと考えることはどのようなことですか。次の条件1・2にしたがって、あなたの考えを別の原稿用紙に書きなさい。

条件1 あなたが心がけたいと考えることはどのようなことを示したうえで、なぜそのように考えたのかを説明すること。

条件2 二百六十字以内で書くこと。

受験 番号	番
----------	---

得点	
----	--

〈問題五を除く〉

二						
4		3	2	1		
b	a			ア	ア	ア
				イ	イ	イ
				ウ	ウ	ウ
	15			エ	エ	エ
		10				

21	4	6	4	4	3	採点者記入欄

一							
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
				厳	悠	隔	挟
	ヤ	アン	ス	ハシラ			
	ハン	ガイ	アナ	肅	久	てる	まった

12	2	2	2	2	1	1	1	1	採点者記入欄

四								
4	3					2	1	
ア						詠み手が、	A	
イ	55					イ	B	
ウ	70	こと。					ウ	C
エ							エ	D

19	4	8	4	3	採点者記入欄

三						
4				3	2	1
b			a	ア	ア	
				イ	イ	
				ウ	ウ	
				エ	エ	
30	舞台上において					
ようこそして		20				

20	6	4	4	4	2	採点者記入欄

